



vol.
80

Japan
College of
Social Work
Alumni
Association

社大 同窓会

同窓会×大学
パートナーシップ推進

同窓会の取り組みをもっと身近に



『会長就任に当たって』

同窓会会長 岩崎俊雄

平成29年6月24日に開催された幹事会において、大橋謙策会長の後任として第8代会長にご指名を受け、今般就任いたしました。

現代の我が国は、子供の貧困問題、生活困窮者問題等々格差社会が進行する中であって、地域包括ケアシステムをより進化させ、困難な問題を持つあらゆる方々を地域で支える地域共生社会の実現が求められています。このような中であって、社会福祉の実践者として「忘我の愛と智の灯」の校歌の下同窓会に結集し、改めてその想いを共有し、親睦を深め、後継者の育成を含めて母校の発展のために想いをつないでいくことが求められているのではないのでしょうか。

言うまでもなく、大学と同窓会は車の両輪であり、連携を深めながら、母校発展のために協力していくことが求められています。今後、大学とのパイプを太くし、同窓会役員、各支部長、会員の皆様等の生の声を聴き、顧問のご助言もいただきながら、地道かつ着実な活動を展開してまいりたいと考えています。会員皆様のご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。就任のご挨拶といたします。



発行所／日本社会事業大学同窓会 〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

電話042-496-3053 振替口座00100-9-42448

ホームページ <http://jcsw-alumni.com/>

編集・印刷／株式会社 JA情報サービス(日本農業新聞グループ)

発行日／平成29年9月15日

4/29

新入生オリエンテーションフェスティバル



ハンセン病を学ぶ
ハンセン病資料館見学



2017/08/29

3/17

学位授与式(卒業式)



福祉の最前線へ

同窓会が求人情報の収集をサポート



6/24・25 就活・
全国フェア in 社大



木田賞・学生研究奨励賞贈呈式



同窓生と一緒に考える



6/24 社大福祉フォーラム2017



メンバー



現在1年生8名、2年生4名、3年生7名、4年生4名います。3,4年は引退しておりますが公演前の練習などで指導に来られる方も多々いらっしゃいます。左下の水色の上着を羽織っているのが代表の石塚です。



児童文化部って??

私たち児童文化部はまだ日本社会事業大学が原宿にあった40年ほど前から活動している意外と歴史のあるサークルです。近隣の小学校や幼稚園、児童施設などで自分たちがーから作った人形を使用し、劇を行っています。

活動のメモ

6月	新入生歓迎会
7~9月	人形や台本舞台背景の作成
10月	学祭にて初公演
2月~5月	依頼された施設にて公演



学祭の準備は先輩方も手伝ってくださりみんなでわいわいやります!



公演中、人形や背景も自分たちで作成しております。



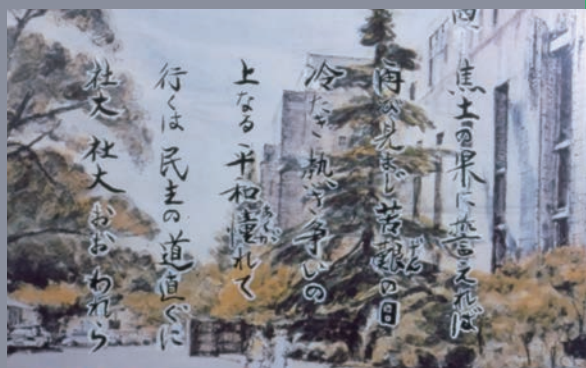
公演中の舞台裏はこんな感じになっております。



● これからの活動

毎年劇の内容は変わっていますが、子供たちは去年の劇の内容を覚えてくれており「今日やる劇の名前を知っているかな?」と聞くと去年の劇の名前が出てくることもあります。このようにどんな子供達でも楽しんでもらい、記憶にのこるような劇をこれからも作っていけたらと思います。

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。



社大70年の歩み

写真記録

同窓会70周年記念スライドショーから
代表的な写真を収録しました。

専門学校学生
募集ポスター(原宿)



研究科1期卒業式記念撮影・牛込校舎



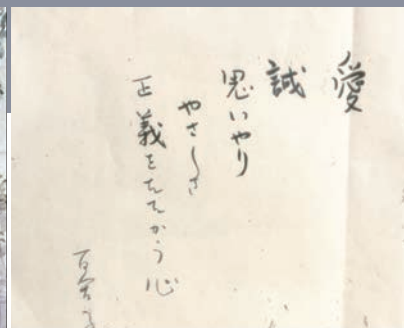
グラウンド開き・中央にバットを持つ仲村先生



山村調査(昭和31年)



アガペ像



五味百合子先生色紙



開学1周年記念
GHQ公衆衛生福祉局長・サムズ大佐祝辞



GHQのD・V・ウイルソン氏を囲んで



農村要保護世帯調査(昭和22年)



第1松窓寮・原宿



学生寮生活「カマを囲む寮生たち」
学生寮は男女共寮であった



学生生活フォークダンス



五味百合子先生



大学別入試シリーズ問題と対策
通称: 赤本(昭和44年)



オリエンテーションキャンプ・山中湖(昭和37年)



同窓会総会企画「七人の侍を囲む会」



新入生歓迎大運動会
(昭和47年)

建学の精神

博愛の精神に基づく社会貢献
忘我友愛

社会福祉の理論を窮め、
ソーシャルワーク実践を常に大切にする
窮理窮行

異なる文化、異なる民族、異なる国籍の人々と
共に生きる社会の創出
平和共生

社大祭全体実行委員



社大祭



山口県支部 「ふくしの心 講演会」及び 「社大同窓会新年会～全員集合！～」を開催！

1月28日(土)に社大同窓会山口県支部の主催で、「ふくしの心 講演会」を開催し、高校生、大学生、福祉現場に勤めている方々等、同窓生以外も含めて82人の参加がありました。

講演会の講師には、潮谷義子理事長にお越しいただき、『ふくしの心について考える』と題して、御講演いただきました。

講演の内容は、潮谷理事長の経験談として、生活保護のケースワーカーのときに学んだ『専門職としてのあり方』のお話や、熊本県慈愛園ホームで園長を勤めていたときに出会った子どもたちとの関わりで学んだ『命の大切さ』のお話、そして、熊本県知事時代に掲げた『想像に溢れ命が脈打つ熊本県』を目指して、どう舵取りをすすめてきたかなど、大変貴重なお話を聞かせていただきました。

また、これから福祉の道を志す高校生、大学生に『絶望の中にある人たちの心に希望の灯をしっかりと掲げることのできる専門職を目指して

福祉を学んでほしい』、『人の心は人によって広がっていく。善意は善意を育てていく。私たちは裏切られても否定されても、あきらめないで自分の仕事の中に相手との心の絆を作りながら、しっかりと関わり合いをもってほしい』と胸が熱くなるようなエールをたくさん送っていただきました。

また、同日の夜「社大同窓会新年会～全員集合！～」を翠山荘で開催し、山口県支部の同窓生14人が参加しました。

今回からの新メンバーも加わり、学部5期から学部54期までの同窓生が、原宿世代、清瀬世代と時代背景、校舎、恩師は違えども、社大同窓生として学生時代の話や近況報告等に花を咲かせ、「また来年もみんなが集まりましょう!」と大いに盛り上がりしました。 村田 拓途



沖縄県支部 同窓会支部現役者研修会を企画

2月25日に 同窓会会長の大橋会長をお招きして、同窓会支部現役者の研修会を企画した。各参加者の職場での担当内容とそこにおける課題等について報告し参加者と課題解決の策を考える機会になりました。今回は8名の参加となりました。

その後会場を移して先輩方も参加しての同窓会支部総会を開催した。今回は通信教育科、専門職大学院、研究科、大学院卒などの仕事現役者も参加し、これまでにない温故知新の機会になりました。

翌24日は第8回沖縄かりゆし実践セミナーを日本社会事業大学同窓会沖縄県支部の共催団体の一員として開催した。約130名の参加を得て講演会と実践報告会を実施した。 上地 武昭

栃木県支部 総会・講演会開催

7月29日に宇都宮市で栃木県支部の総会・講演会・懇親会が開催されました。

講演会は、地域包括ケアシステムをテーマとし、県内で先駆的に取り組んでいる栃木市の担当課長をお招きしました。参加者は非会員含め30名を超え、関心の高さがうかがえました。

会員数が年々減り、高齢化も進んでいますが、やはり社大は会員にとって心のふるさと。ここで培われたご縁はいつまでも大切にしたいものです。 菊池 浩史



岩手県支部 平成29年度 同総会

7月22日(土)
ホテルルイズ



準硬式野球部 新関東大学リーグの2部昇格

4月から新しく選手6人、マネージャー2人が入部し、チーム力・個々の技術向上に向けて日々練習に励んでいます。

この度、新関東大学準硬式野球連盟の平成29年度春季リーグ戦で、3部優勝を果たしました!また、5月28日に行われた多摩美術大学との入れ替え戦では7-4で勝利し、2部昇格が決定しました。

秋季リーグより2部での戦いになります。皆様の熱いご声援をよろしくお願いします。



東久留米市シルバー人材センター 大学の中庭の花壇作りに尽力



平成28年11月5日の学校法人日本社会事業大学創立70周年記念式典で感謝状が贈呈されました。

同センターは、大学管理棟の清掃や大学への訪問者に湯茶をお出しする業務のほかに、大学の中庭に花壇を作り四季折々の花を育てる作業を長年ボランティアで取り組まれています。

1979年度生同窓会 ご案内

79年度学部入学生と同窓会を開催します。万障お繰り合わせのうえ、ご参加ください。 (幹事:小田中 博志)

★日 時:平成29年10月28日(土) 13:30~

★会 場:原宿・南国酒家

★詳細は同窓会ホームページに掲載しています。

<http://jcsw-alumni.com>

◆2017年度事業計画

昨年10月、同窓会は在校生と卒業生による母校創立70周年記念イベントを開催した。この経験を踏まえつつ、これまで取り組んできた就職の支援や卒業生のネットワークづくりとともに、全国各地でのセミナー開催や70周年記念イベントのような在校生との共同事業や共同研究なども行っていく。また、清瀬年代の学部、大学院、通信教育科からの入会者に同窓会に積極的に参加してもらう仕組み作りや活動を検討・実施していく。

2016年度 日本社会事業大学同窓会収支計算書

2017年度 日本社会事業大学同窓会予算

収入の部 (単位：円)		
科 目	2016年度決算額	2017年度予算額
会費収入	3,965,550	4,500,000
入会金収入	845,920	882,000
利息収入	8	500
雑収入	340,111	200,000
70周年記念事業五味基金繰入	2,000,000	0
前年度繰越金	565,041	581,196
合 計	7,716,630	6,163,696

【収支差引額】

7,716,630 - 7,135,434 = 581,196
(収入決算額) (支出決算額) (翌年度繰越額)

◆2016年度同窓会基金(元会館建設基金)現在高

15,589,642円

◆2016年度五味基金

16,323,765円

支出の部		
科 目	2016年度決算額	2017年度予算額
会議費	187,153	200,000
運営委員会活動費	23,900	50,000
人件費	482,500	600,000
支部活動強化費	290,611	600,000
機関誌等発行費	2,905,499	3,000,000
支部出張費	234,680	250,000
通信運搬費	48,820	100,000
学内学会助成費	100,000	100,000
システム管理費	413,905	400,000
ホームページ関係諸費	64,800	100,000
慶弔費	0	50,000
国際交流推進費	30,329	50,000
卒業記念品費	213,660	250,000
会費徴収資材作成費	0	100,000
事務局活動費	19,444	50,000
事務局業務委託費	91,400	100,000
70周年記念事業費	1,946,526	0
70周年記念事務費	82,207	0
予備費	0	163,696
合 計	7,135,434	6,163,696

石橋第6代同窓会長
生涯スポーツ功労で大臣表彰

社会福祉法人バステル理事長石橋俊一さんが平成28年度生涯スポーツ功労者として文部科学大臣表彰を受賞しました。両松葉校生活から卓球との出会いで単独歩行が可能になった体験から、昭和54年に栃木県障害者卓球連盟を発足させ会長として35年間、障害者卓球の振興と参加者の交流を実践してきた功績などが評価されたもの。障害者スポーツ関係者の同功労表彰は県内では初めて。県障害者卓球連盟を発足後自らも卓球競技で全国障害者スポーツ大会に選手として出場し活躍した。平成24年日本社会事業大学社会福祉学会木田賞(実践賞)受賞。栃木県障害者スポーツ協会顧問。群馬医療福祉大学名誉教授。

◆母校在学学生への支援

- ①就活・全国フェアの開催(卒業後に故郷や地方に就職を考えている在校生のため、同窓会支部の相談コーナーを設け就職支援)
- ②五味基金の活用(修学困難学生に対する支援として支部推薦入学者に奨学金支給)

◆その他の議事

- ①在校生からの会費徴収のための会則の一部改正
- ②支部からの同窓会活動強化のための提案
- ③卒業生(地方就職者)進路情報「氏名・連絡先」等の支部提供等についての協議。

同窓会活動強化のためのキーワード

同窓会総登録数 15,707人 清瀬年代(入学者) 6,419人		会報送付数 8,070部 同窓会の取り組みをもっと身近に
就職などの在学学生支援 就活・全国フェア 同窓会支部相談会の開催		会費納入者(約1,500人) 同窓会基盤の強化 会費を納入する若い世代や 通信教育科修了生への参加推進
同窓会 × 大学 パートナーシップ推進	修学困難学生に対する支援 五味基金の活用 支部推薦入学者に奨学金支給	大学入試広報との連携 同窓会セミナー(地方大会)の活性化 高校・高校生への参加呼びかけ

3月17日

同窓会主催
留学生の卒業を祝う会

3月25日

法人と同窓会の
意見交換会

6月24日

- 幹事会
- 今般の役員改選で、これまで同窓会活動に多大のご功績を残された大橋会長(現顧問)、上田顧問、石橋顧問、神田顧問が退任されました



同窓会費納入にご協力を

会報「社大同窓会」を年に2回約8000人の同窓生・約1000人の在校生にお届けしていますが、会費納入者は約1500人とどまっています。母校創立70周年を契機に大学と卒業生・同窓会が双方で協力していくことで、母校・社大をさらに発展させていくことができると考えていますので、一人でも多くの方の会費納入をお願いする次第です。

同窓会役員一同

地域との繋がりを

求めたら・・・

神奈川県アガベセンターで障害者支援に関わられています

伊藤さんからの紹介で卒業後一も二もなく飛び込んだのは当時まだ児童施設だった知的障がいのある方の入所施設。入所とはいえ家庭や地域との関係色濃く残す障がい児童の発達に関わる分野での仕事に従事したいと希望していたからでした。

同職場で十年。他に例のない地域性を活かした住民の皆さんとの関係づくりを模索しましたが、そこでの課題意識をもとに若くして亡くなった同級生〇君の背中を追いかけて、いわゆる地域作業所に移ったのが三十三歳。その後四十歳を目前に現在のアガベセンター（社会福祉法人日本キリスト教奉仕団）に転じ、早や十八年が経過しました。

これまでの事業展開にどんな思いがありますか

アガベセンター（神奈川県・座間市）は、戦後間もなく開設障がいのある方の職業リハビリテーション分野では全国でも草分け的存在として知られますが、勤め始めた頃は、最も重い身体障がいのある方の旧・療護施設（現・施設入所支援・生活介護）への転換期にあり、利用者の皆さん、専門学校卒業後間もないスタッフらと、いかに地域に根ざし

た生活を創り出して行くかに腐心する日々となりました。

その六年後、地域のニーズに応え、法人として初めて知的障がいのある方の事業所を開設することになり、図らずも「地域との関係作り」に携わることになったのが、カレーキッチン・サラでした。（就労継続B、移行の多機能型事業所・写真）

サラは飲食店として、調理、洗い場、接客、レトルト製造と通所される皆さんが、得意分野に応じた役割を担いつつ、地域の方々と直接繋がりがながら社会参加を実感できる事業所を目指しました。

開店から十年、近隣の工場にお勤めの方や、お子さん連れのお母さん方で変わらない賑わいを見せ、地域の皆さんとの絆を日々深めています。

アガベセンターが、障がいのある方たちへの支援に特化した取り組みを開始したのが一九六二年。それ以前から、そしてそれ以降も継続する「災害支援」や「アジア研修交流事業」は、法人と



人としてあたりまえに生きる権利を求めた堀木訴訟。歌いつつ判決を待った傘の花開く三五年前の七夕、最高裁前



小田中 博志
学部23期
(1983年卒)

しての特徴あるもうひとつの取り組みと言えます。

自身も、〇三年タイ・バンコクのスラム訪問や、〇四年新潟中越地震直後の現地支援等を通じてその活動の一端に触れる機会を得ましたが、それらの経験を通して感じられたのは、当たり前のことながら、日頃から顔と顔でつながっているコミュニティというものがいかに大切か。ということでした。

小田中さんといえば「うたごえサークル大空」ですね

大学入学前には、想像もできないことでしたが、いいトシをした働くおじさんたちがなり振り構わず願いを込めて歌う歌。障がいのある方たちの言葉にならない心の叫び。原水禁大会、熱気にもせ返る体育館で平和への思いを一つにした歌。かつて経験したことのないそんな心震わせる歌の数々に、突き動かされるように自らもギターを持ち、様々な場所で歌うことになったのだろう。と今は感じています。

の風景は、今も臉に焼きついて離れません。



学生時代の思い出は

社大祭プレ企画、バザーの寄附集めにリヤカーで竹下通りや近隣をねり歩いたことは忘れられませんね。また、架空サークル「広告研究会」で表参道シャゼリゼ商店会の正規広報誌製作を請け負ったり、原宿駅坂下口に「社大祭」の垂れ幕を掲げてもらえるよう飛び込みで交渉するなど、若気の至りで当時から地域との繋がりを求めたゲリラ的な取り組みに生きがいを感じていたようです。（笑）

今後の抱負は

幼い頃、近所に障がいのある友人がいました。ある日気づくと姿が見えず、その数年後に亡くなったことを知りました。もの心つくようになって後、その友人のお母様に「小さい頃遊んでくれてありがとね。」と伝えられ、予期せず涙が溢れました。何故ならその友人を怪獣扱いしては追いかけ回し、プロレ

ス技を仕掛けては降参を迫るといった、目に余る所業の数々が後悔と共に胸に蘇ったからでした。ただ一方で、彼の表情や声、体から放つ匂いに至るまで、温かなものを伴って思い返され、彼は「障がいの者」でなく、間違いなく「友人」だったことも。あたりまえに障がいのある人がそこにいる社会。今の仕事を通じてもう少しそんな場面や機会作りのためのお手伝いをしたい。そう思うこの頃です。



プロフィール

小田中 博志
(おだなか ひろし)

1959年
東京都中野区生まれ
1983年
日本社会事業大学児童福祉学科卒
現在
神奈川県座間市
社会福祉法人日本キリスト教奉仕団
アガベ舎番館 施設長